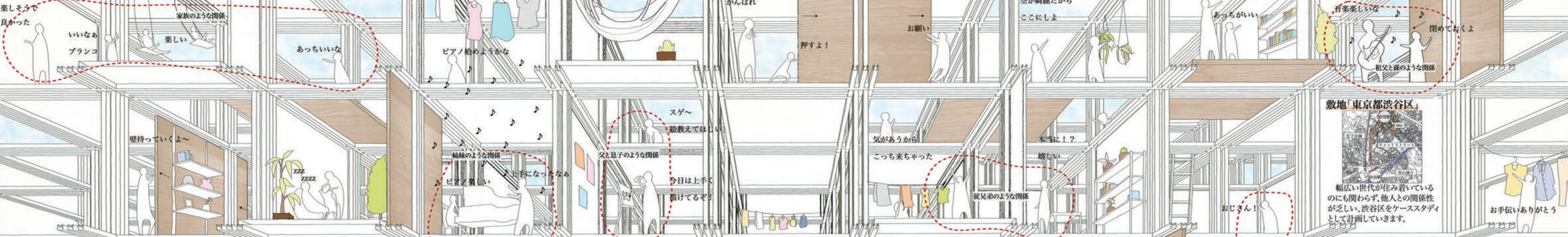


今日はだれのおとなりさん？



敷地「東京都渋谷区」



幅広い世代が住み着いているにも関わらず、他人との関係性が乏しい、渋谷区をケーススタディとして計画していきます。

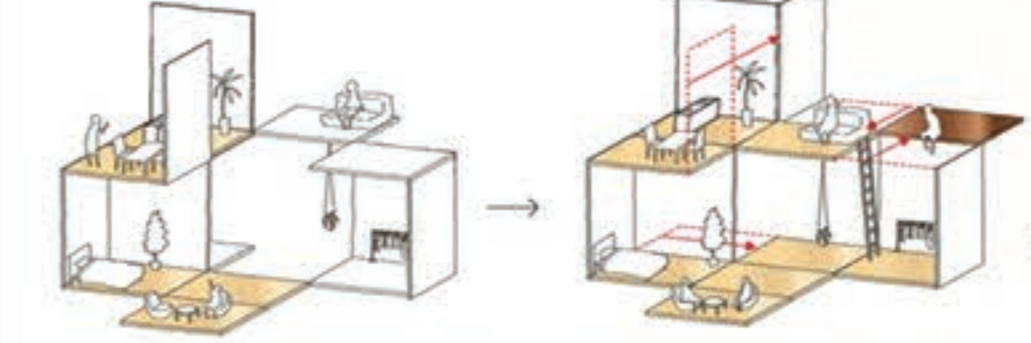
何千年も続いた「家」の暮らし

人は、世界中の何処かで他人と繋がるインターフェース=仮想空間(SNS)を手放すことはなく、私たちの暮らしは、常に多様性を生み出し、自由自在に且つ簡易的に、他者との距離感を構築することが可能となりました。

しかし、物理的な「家」はどうでしょうか。

要塞化されたハコの中では、人々の生活は完結しており、身動きを取る事ができずに地に居座っていることから、住環境の過渡期に差しかかっているといえます。

nLDKの解体と建築システム提案



床と壁を自由に移動させることで、人と人の距離感が常に変化します。他者に自分の生活を還元することで、次第にコミュニティが形成され、nLDKという形を解体していきます。

要塞化された「ハコ」の家



人は大きな半屋のような、社会と拒絶された家(ハコ)に暮らしています。そんな「家」から自由な旅に出る感覚で暮らせたらどんなに幸せでしょうか。人が持ち運ぶ「イエ」を選択し、バックパッカーのように様々なところで借り暮らしをして一人ひとりの世界を広げていきます。

疑似家族の形成

現在の「ハコ」家という物理的な制限から解放されることで、家族という今までのコミュニティ単位を飛び越え、住人同士が偶然に疑似的家族のような関係を構築していきます。至る処に自分の居場所がある、毎日がワクワクする新しい暮らしをしてみたいと思いませんか？

